

2021年6月1日

ミャンマー危機の解決はミャンマー人の叡智で

IIMA 客員研究員 福田幸正

ミャンマーの民主化を後押しする国際支援が好調だった最中の2017年2月、「押し寄せる援助に悶えるミャンマー」¹と題したIIMAメールマガジンへの寄稿で、アウンサンスーチーの国際援助コミュニティに対する複雑な心理などを取り上げた。最近では本年1月、第3代国連事務総長ウタントの孫にあたる歴史家のタンミンウー(Thant Myint-U)の著書*The Hidden History of Burma: Race, Capitalism and the Crisis of Democracy in the 21st Century*, Atlantic Books, 2019に対する書評を「ビルマの夢は何処へ」と題して他の団体向けに寄稿した²。タンミンウーは、ミャンマーが抱える深刻な課題として、無秩序な自由市場化にともなう闇経済の浸透、辺境地域に集積する麻薬製造、北に国境を接する中国の怒濤のような進出、未完の民主化プロセス、多様性(公認民族だけでも135)を包摂する寛容な国民国家づくりのむつかしさ、などをあげていたが、インサイダーのタンミンウーですら、2月1日に勃発した軍のクーデターは想定外だったのだろう。自分はコロナ前までは何度かミャンマーに行く機会があったが、その際お世話になったミャンマーの友人と最後にメール交信したのは2月5日。「クーデターを境に、人々から笑顔が消えた」という短い悲壮な返事だった。それ以来、音信は途絶えている。

全土に広がった反軍デモの終息の見通しはついていない。現地からの映像を見ていると、多くの若者が命がけでデモに参加している。ミャンマーは25歳未満の国民が4割以上という若い国だ。彼らは、2011年から始まった軍政から民政への移行に伴う民主化の流れを当然のこととして育った世代だ。クーデター以前に接したミャンマーの若者たちは皆、口数少なく穏やかな性格の持ち主という印象だったが、そんな彼らも自分たちの未来に希望が持てないとなると、こういう事態になるのか。このまま情勢が悪化すると、東南アジアのど真ん中に、破綻国家が出現しかねない。

「デモ参加者には同情してやまないが、いくら待っても援軍は来ないのだよ」³と論ずるのは、シンガポールの元外務次官 Bilahari Kausikan。流血の阻止と事態の鎮静化のためには、いかに苦々しくともミャンマー国軍が実施するとしている一年後の再選挙が最も現実

¹ <https://www.iima.or.jp/docs/merumaga/2017/20170201fukuda.pdf>

² <https://www.sridonline.org/j/doc/j202101s07a01.pdf#zoom=100>

³ Southeast Asian Summit Will Address Violence Post Myanmar Coup, NPR, April 21, 2021
<https://www.npr.org/2021/04/21/989400613/southeast-asian-summit-will-address-violence-post-myanmar-coup>

的であり、同時に、アウンサンスーチーには永久軟禁となっても **happy retirement** の保証、国軍には面子を保った形での退路を確保していくことが重要。そのためのデリケートな交渉には時間がかかるので、国際社会（特に理想主義を掲げる欧米）にも忍耐が必要、と冷静に分析している。さすがは現実主義で知られるシンガポールの外交官、と感心するが、実際、ASEAN は米国と中国に目配りしつつ、シンガポールのはたらきかけでこの方向で動いているように見受けられる。まずは、国軍側と民主勢力側が対話のきっかけをつかむまでが最初の難関。その後の交渉も一筋縄ではいきそうにない。

ASEAN を舞台にしてミャンマー問題解決に向けたシンガポールの存在感が増しているが、やはりミャンマーのことはミャンマー人の声が重視されるべきだろう。冒頭にあげたタンミンウー以外では、最近主要メディアで注目されるようになった Moe Thuzar（シンガポール在住のミャンマー人研究者）といった発信力のある知識人をはじめ、優れた憂国の士が世界中に散在しているという。

ミャンマーではこの瞬間も流血が続いていることには心が痛む。

ようやく ASEAN が動き出したが、ミャンマー危機が、ミャンマー人の叡智によってよい方向に向かうことを、そして一刻も早くミャンマーの人々に笑顔が戻ることを切に願う（ことしかできないが）。

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませよう、宜しく願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2021 Institute for International Monetary Affairs（公益財団法人 国際通貨研究所）

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

電話：03-3510-0882（代）

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>